



2019年6月10日

各 位

「第 69 回 自動車技術会賞」受賞のお知らせ
～技術者 2 名が論文賞を受賞～

三井金属（社長 西田計治）の技術者が、株式会社本田技術研究所の技術者と共著で執筆した論文が、公益社団法人自動車技術会の「第 69 回 自動車技術会賞」に公募し、論文賞を受賞しましたのでお知らせいたします。

当社触媒事業部は、二輪をはじめ四輪向け排ガス触媒を開発・製造販売しておりますが、この度、長年開発してまいりました DPf (Diesel Particulate Filter) 触媒が高効率ディーゼル車に搭載され、低燃費/低エミッションに大きく貢献しており、環境の点からも高く評価されるとし、論文賞を受賞いたしました。*

自動車技術会賞は、「自動車工学及び自動車技術の向上発展を奨励すること」を目的として 1951 年に創設され、創設以来、自動車技術分野及び本会を代表する賞として常に注目を集め、受賞者の功績は非常に高い評価を得ています。*

当社のスローガンである「マテリアルの知恵を活かす」のもと、触媒活性メカニズムの解析技術、粉体制御技術、スラリー化技術、担持技術等を活かし、資源・環境へ配慮した商品づくりに邁進するとともに、お客様への安定した品質と十分な供給を確保してまいります。

以 上

【お問い合わせ先】

三井金属 経営企画本部 広報部 TEL 03-5437-8028 FAX 03-5437-8029

Eメール PR@mitsui-kinzoku.com

(参考)

【受賞テーマ】

高効率 Diesel Particulate Filter 再生触媒の開発

【受賞者】

森 武史 株式会社本田技術研究所

迫田 昌史 株式会社本田技術研究所

根本 康司 株式会社本田技術研究所

古川 孝裕 三井金属鉱業株式会社

柿崎 慶喜 三井金属鉱業株式会社

【受賞理由】

ディーゼルエンジンから排出される黒煙（PM）はディーゼルパーティキュレートフィルター（DPF）で捕集される。PMが溜まったDPFは温度上昇により強制再生しているが、このときの燃費低下/排出ガス量（エミッション）増加が課題となる。

これに対し、本論文は高速でDPFを再生可能な触媒技術を提案した。高解像度の電子顕微鏡によりPM粒子形状・構造を観察し、マクロ、メソ、ナノの視点からその形状・構造に適した触媒形状やコート状態とすることで、PMと触媒の接触性を高め、PMの火炎伝播反応を促進させるコンセプトを立案した。この触媒を具現化し、実車で検証した結果、飛躍的に再生性能を高めることに成功した。本技術は高効率ディーゼル車に搭載され、低燃費/低エミッションに大きく貢献しており、環境の点からも高く評価される。*

※ 公益社団法人自動車技術会のホームページより引用もしくは一部引用